いしかわ地域づくり

往来

www.pref.ishikawa.jp/shinkou/dukurikyou/

発行日/平成24年3月 発 行/石川地域づくり協会 発行者/石川地域づくり協会事務局 事務局長 中本利光 〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地 石川県企画振興部地域振興課内 TEL. 076-225-1312 FAX. 076-225-1328

Vol.11



Contents

1	石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み株式会社アンヤット 2株式会社アンヤット 2特定非営利活動法人のとキリシマツツジの郷 3深田久弥を愛する会 4物使・東谷口乗合タクシー運行協議会 5特定非営利活動法人円満の会 66任意団体心田開発 7高坂・根上町緑を守る会 8多田喜一郎氏 9
2	地域づくり総務大臣表彰 受賞者の取り組み 向峠智隆氏 ・・・・・・・・・・10

石川地域づくり塾の報告

研修成果報告会 · · · · · 11

3

1-a 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

石川県では、住民主体で地域の活性化に取り組む団体・個人を顕彰する 「石川地域づくり表彰」を実施しています。平成23年度受賞団体・個人の表彰式は、 11月20日に羽咋市で開催された研修交流会「いしかわ地域づくり円陣2011」で行いました。 ここでは、受賞した団体・個人に取り組みを紹介してもらいます。

株式会社 アンヤット(小松市)

団体の部・優秀賞

平成22年4月に創業した株式会社アンヤット (以下、弊社)では、「持続可能な地域循環型経 済システムの構築を目指す」を合言葉に、地域 にある資産を有効に活用した新しいビジネスモ デルの構築に取り組んでいます。

弊社の位置付けは「社会的企業」であり解決 すべき社会問題は「小松市の衰退した経済問 題」です。

その為、自社だけが収益を上げるのではなく、 弊社の活動に参画していただく地域の中小事業 者様の収益向上が最大の目的で、それが達成 された結果として弊社に利益が生まれると考え ています。

当初は、小松うどんのブランド化事業からス タートしました。350年以上の歴史を持ち、松尾 芭蕉も称賛したといううどんは全国的に見ても 勝負できると考えたからです。

その他にも小松産六条大麦の地産地消事業、 地元産品の販売支援事業、中心商店街活性化 事業、6次産業化促進のための店舗運営事業な どに取り組んでいます。

地域内の多くの事業者様と共に、小松市を中 心として広域的な広がりをも視野に入れながら 経済的メリットの創出に日々邁進しています。



1-b 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

特定非営利活動法人 のとキリシマツツジの郷(能登町)

団体の部・優秀賞

当法人は、平成21年4月に設立しました。

その前身は、昭和40年代の「鉢づくりの会」に 始まり、のちに「柳田盆友会」と改称しました。 平成6年には、「古華 能登キリシマつつじ~ 古木の調査書」を発刊しています。

その後、平成16年に各地の活動集団を組織 化し「のとキリシマツツジ連絡協議会」を発足さ せ、名称も「のとキリシマツツジ」に統一、その 記念として、翌年に「写真紀行~のとキリシマ ツツジ~」を発刊しました。

新潟植物園の倉重祐二副園長と島根大学の 小林伸雄教授に「古木が数多く、日本一の規 模である」との評価をしていただき、また、併せ て能登固有の品種が確認され、私たちはその 品種を「紅重」(べにがさね)と命名しました。

情報の発信として、展示会を昭和60年代よ り実施し、県都金沢市でも10年開催していま す。能登空港開設を機に、平成17年より、 ゴールデンウィークの3日間、空港前の広場で 「のとキリシマツツジフェステバル」を開催し、本 年は1万8000人が来場しました。

また、国内外から眼を向けてもらいたいとの 強い思いから、一昨年3月には東京の「新宿御 苑アートギャラリー」で、昨年3月には神奈川県 鎌倉市の「神奈川県立大船植物園」で、それぞ れ6日間の「のとキリシマツツジ展示会」と「シ ンポジウム」を開催し、ご好評をいただききまし た。

本年は、3月(2月29日~3月4日)には、京 都府立植物園で開催し、4月には金沢の「しい のき迎賓館」でも開催の予定です。



1-c 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

深田久弥を愛する会(加賀市)

団体の部・奨励賞

私達深田久弥を愛する会は、平成9年10月、 「日本百名山」の作家である深田久弥を慕う人 達が集まり設立されました。地元大聖寺ばかり でなく全国にも会員を募りました。そのうちに、 深田久弥を顕彰する施設を開設したいという 機運が盛り上がり、メンバーはその為の活動を してきました。平成14年12月、待望の「深田 久弥山の文化館」が開館することとなり、その 開設準備から運営にも参画し、近年は指定管 理者として館の運営に携わっています。

毎月行っている、山、自然、文化に関する講 演会の「聞こう会」、小中学生を対象とした絵画 と写真のコンクールである「ふるさとの自然ふ れあいコンクール」の運営などのほか、別棟の 聴山房では、地域の方々の工芸や写真、絵画 などの発表の場として、「聴山房展」を開催して います。

人と人との繋がりを生かして、深田久弥に深 くかかわった人々や、登山や山の文化を愛す る皆様からの展示資料の収集に努めると共に、 その輪を拡げるべく、山岳自然愛好者との交 流、類似施設の方々との交流も深めています。 また、会員相互の親睦と研修にも努めていま す。



1-d 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

勅使・東谷口乗合タクシー運行協議会(加賀市)

団体の部・奨励賞

勅使・東谷口乗合タクシー「のりあい号」は、 地域の公共交通を担ってきた路線バスが廃止 されることになり、両地区の区長会が、地域住 民の足を無くしてはいけない、地域のイメージ ダウンになるとの危機感を抱き、住民組織によ る運行協議会を設立し、運行を開始したもので す。

住民の理解、利用者の有無、運行形態など、 数々の課題がありましたが、地域住民の熱い 要望と市からの物心両面の厚い支援もあり、こ れまで強力に推進していきました。運行はタク シー事業者に委託していますが、委託料にお いて心強い協力を得る事ができ、≪地域・行 政・事業者の三者協働≫による「のりあい号」 の形態が誕生しました。

住民組織による運営のため、バスよりやや高 い利用料金、最小限の運行便数、登録予約制 の運行等の制約がありましたが、その運営故 に、利用者の方々にそれらの制約を納得して いただけています。

不安な面を抱えた出発でしたが、当初想定し た利用者数を上回り、今では地域住民(特に高 齢者、通院者)にとって、なくてはならない「のり あい号」となりました。



1-e 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

特定非営利活動法人 円満の会(小松市)

団体の部・奨励賞

円満の会は1998年11月に発足し、真宗大 谷派本光寺を事務局として、本光寺の若手門 徒やその他の人々約500人の会員で、地域 の活性化と会員の親睦を計るため、政治と宗 教を除く活動を行なっております。

会員の要望と理事長(本光寺住職)の思いを 具体化し、私たちは次の活動をしています。

老人、障害者の介護施設の清掃奉仕。歴史 探訪の日帰り小旅行。4月から10月までの年 7回の朝市。ゴルフ大会とボウリング大会。小 松大谷高校と地域の町内の人々との親睦の運 動会。小松東部リーグに所属するソフトボール チームの運営。7月の最終の日曜日に行なわ れる円満フェステバル等です。

特に、朝市はすでに2011年10月で67回目 になり、毎回50店舗が出店し、スタッフだけで も200人以上、訪れる人は1500人ほどもい ます。

また、昨年の8月には谷本正憲石川県知事 の来訪もあり、大変賑わいました。恒例の108 杯の円満粥もあっという間になくなり、知事にも ご賞味していただきました。また、円満フェスに いても、境内にステージを作り、出し物も多く、 飲食ブースもあり、カラオケ大会や円満踊り等、 常に毎回大盛況です。



1-f 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

任意団体 心田開発(能美市)

団体の部・奨励賞

任意団体心田開発は、シニア世代の社会的 有用資産(資格・特技・知見)と農作業の福祉 効果を活かし、ピュア故にうつ病や統合失調症 などに苦しみつつも社会復帰を目指す方々に 循環型農耕・園芸作業プログラムを提供して、 健康回復と自立の支援をすることを目的に、平 成21年3月に結成されました。

各種団体とネットワークを構築し、"魚を与え 一日を養い、漁法(すなどり)を伝え一生を養 う"のボランティア精神で、農耕技術と知恵を伝 えるソーシャル・ビジネスの事業化に取り組ん でおり、社会的弱者・シニアのワークシェア確 保やフードシェアなどによって、"やすらぎの共 生(地域)社会の創生"をめざして活動中です。 農作業の福祉効果は、会員が所属するNPO法 人日本園芸福祉普及協会の"園芸福祉の理 念"に由来しています。理念のベクトルが示す 協働の地域づくりの体現のため、地場の加賀

丸いもや蔬菜の栽培、農芸文化事業活動、福 祉事業関係の交流を通し、"人は人生のある 時点で障害を得る"というユニバーサル・デザ インの視点を大切に、世代や性差・障害の有 無の"際"を超えての交流、社会的弱者のアイ デンティティー確立への社会的合意形成を求 め、能美市が提唱する市民・行政・企業が協働 する"あたらしい公共の力"によるユニバーサ ルな"まちづくり事業活動"にも参加しています。



1-g 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

高坂・根上町緑を守る会(能美市)

団体の部・奨励賞

この度の受賞は、様々な団体の皆さんと協働 で活動したことに対しての受賞だと受け止め、 活動にご参加、ご協力いただきました皆様方 に深く感謝するとともに、喜びを分かち合い、こ れを今後の活動の推進力とし、継続して活動 の輪を広げていきたいと思います。

私達の活動は、自然が相手の活動で、今す ぐに成果が出るものではありませんが、活動を 通じて、様々な団体、企業、学生の方々との情 報の共有により、お互いに切磋琢磨しながら活 動が進められるところが特徴でもあり、利点だ と考えます。

特に青少年団の団体(地域の小・中学生・ PTA、根上中学校生徒会、はまなす緑の少年 団、ボーイスカウト、能美市手をつなぐ育成会) との協働で、継続して活動できる仕組みづくり が出来ました。また、課外授業に出かけ、松林 の役割と重要性、保全・再生等の環境教育の 結果、学校林が新設・造成され、学習の中で育 成管理を実施し、100年木を育てる礎が出来 ました。

今後も協働活動を基盤に、様々な皆さんに呼 びかけ、松林再生を通じて地域づくりを実現し、 動植物と共生でき、災害に強い防風林の育成 を目指し活動を継続します。

最後に、現在も会員を広く募集していますの で、私どもの活動に賛同される方々を入会をお 待ちしています。



1-h 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

多田喜一郎氏(能登町)

個人の部

春蘭の里実行委員会は、春蘭の里があと10 年たったらどうなるのか、家や住民が半分にな るのではないか、との懸念から、平成8年に7 人のメンバーにより生まれました。

集落全体をまとめるのではなく、やる気のあ る者が集まるやり方で始まり、現在、春蘭の里 には、30軒の農家民宿があります。私たちは、 行政に頼らない地域づくり、しかし行政が応援 したくなるような地域づくりを目指しています。 行政も、この組織は本気か否か、つまり、やる 気があるのかないのか、お互いの接点を模索 しているのだと思います。

農家民宿では、一般客や修学旅行、教育旅 行の受け入れなどの他、今年も4月から中国 からの受け入れを予定しています。何もない地 域に「何もない」という貴重な宝が眠っていたの です。

私たちは現在、月40万の収入をあげられる という、若者が帰ってきたくなる下地を、元気な 高齢者がいるうちに作ろうとの思いで活動をし ています。元気な高齢者こそが地域資源なの だと思います。

昨年はおかけ様で、私達の取組が認められ、 国土交通大臣賞、農林水産大臣賞、内閣総理 大臣賞、BBC ワールドチャレンジ600の中 から12のファイナリスト、そしてこちらの知事表 彰などの栄誉をいただきました。

世界農業遺産に認定されたのこの地域に、 かつて飛んでいたトキが飛ぶ、そんな地域の 再生を目指しています。



地域づくり総務大臣表彰受賞者の取り組み

地域づくり総務大臣表彰(総務省主催)は、全国各地でそれぞれの地域をより良くしようと 頑張る団体、個人を表彰しています。平成23年度は、石川県から1人受賞しました。

向峠智隆氏(能登町)

昔々、頭に角を持ち体中を漆で塗り固めた猿 の様な怪物がいた。怪物は「猿鬼」と呼ばれ、 川辺の洞窟を根城にしていろいろ悪さを働いて 村人を苦しめるので、知恵を絞った女神が筒 矢で退治した。

能登町にはこの猿鬼伝説に由来する地名が あちこちに残っていて、猿鬼を祀る岩井戸神社 もあります。私は昭和62年に地区の公民館長 に就任したことを機に、猿鬼にこだわり続けて きました。

この年から始めた「猿鬼歩こう走ろう健康大 会」は25回を数え、猿鬼が暴れ回った地域を 歩いたり走ったりするユニークなマラソン大会 で約1500人が出場し、キャラクターは永井豪 先生に描いてもらっています。平成5年には能 登各地の猿鬼伝説を調査し、その記録を研究 書にまとめ、平成13年には8回目となる「全国 鬼サミット」を能登町で開催しました。

私は観光ボランティアガイドも務めています。 四半世紀にわたる取り組みにより、伝説を体感 したり学んだりしようと、町外からも訪れる人が 増えてきました。今回の大臣表彰は私を取り巻 く多くの方々の協力の賜物であり、これからも 体の続く限りこの伝説を通して地域の魅力を語 り伝えていきたいと思います。



石川地域づくり塾の報告

平成23年度、地域活動の担い手育成のための研修会として6月から開催してきた 「石川地域づくり塾」。

平成24年3月3日、石川県青少年総合研修センターで、赤須治郎氏コーディネーターに、 研修成果報告会を開催しました。今回は、その様子を報告します。

研修成果報告会

今年度の石川地域づくり塾研修成果報告会 は、2つのセッションに分けて行われました。

第1セッションでは、地域づくり塾の各回を 通して学んだことや、受講当初の自分の目標 を達成できたか、などについて、塾生のみな さんに発表して頂きました。その後は、参加し た石川地域づくり協会の運営委員、コーディ ネーターのみなさんからのアドバイスを受け、 今後の自らの活動のヒントを得る機会となり ました。

第2セッションでは、平成24年度の「石川地 域づくり塾」の開催に向けて、これからの地域 づくり活動に必要なものは何か、などについ て、参加者全員で議論しました。

地域づくり塾受講者のみなさんは、これから、 石川地域づくり協会の事業をはじめ、全県的 な地域づくり活動に携わっていきます。



平成24年度も石川地域づくり塾を開催 予定です!

平成24年度も、地域づくりのリーダー育成 を目的にした「石川地域づくり塾」を開催予 定です。

平成24年5月26日(予定)の当協会の総会 において、23年度塾生による塾の紹介を実 施したいと考えています。

24年度の塾の募集などについては、随時、 当協会のHPにアップしますので、ぜひご覧 ください。